

序論

- 人は自分の立場・容姿・状況に満足できず、不満や劣等感を持つことがある
 - 例: 経済的な差・容姿のコンプレックス・社会的地位
- 現代社会: 目に見える基準(財産・地位・学歴など)で人を判断する
- 聖書は「別の基準」を提示し、私たちが本当に気にすべきことを示している

コリント教会の背景

- コリント: 商業都市、多様な文化と宗教が混在
- 社会的プレッシャーが強い中、クリスチャンはどう振る舞うべきか悩んでいた
- 特に二つの問題:
 1. 割礼の問題(ユダヤ人と異邦人の違い)
 2. 奴隷という社会的立場の問題

本論

1) 分に応じて、召されたときのまま歩め(7:17)

- 神様は人それぞれに「分(取り分・分け前)」を与えておられる
- 割礼・奴隷・自由人など → そのまま受け入れて歩むように勧められている
- タラントの例え(マタイ 25 章)
 - 与えられた量は違っても、忠実に用いることが大切
 - 神様は「どれだけ多いか」ではなく「どのように用いたか」を評価される
- クリスチャンの生き方:
 - 置かれた状況を「神様からの分け前」として受け入れ、忠実に用いる

2) 見た目を気にしてはいけない(7:18-20)

- 割礼の問題:
 - 異邦人クリスチャンは割礼を受けなくてもよい(使徒会議の決定)
 - しかし、既に割礼を受けていたユダヤ人は「それを隠すべきか」と悩んだ
- 当時の社会: 割礼は侮蔑の対象(体育館・浴場の利用制限)
- 現代の例: 入れ墨(文化的偏見)
- パウロの強調:
 - 割礼の有無は「取るに足りない」
 - 大切なのは「神の命令を守ること」= 神様を愛し、隣人を愛して生きること
- 世の中は「見た目」で判断するが、クリスチャンは「従順」で判断される

3) この世の立場を気にしてはいけない(7:21-22)

- 当時、ローマ社会の 3 分の 1 が奴隷

- 生まれつき・借金・戦争捕虜・犯罪によって奴隷になることもあった
- 教会にも奴隷の信者が多くいた
- パウロの言葉：
 - 奴隷であっても「主に属する自由人」
 - 自由人であっても「キリストに属する奴隷」
- 本質：
 - 社会的立場は違っても、救われた者はみな「キリストに属する者」
- 实际的勧め：
 - 状況改善の機会が与えられたなら用いてよい
 - しかし、焦点は「自分の主人はキリスト」という自己認識

4)キリスト者の立場は、神に買い取られた神のもの(7:23)

- 「代価を払って買い取られた」＝十字架の贖い
 - イエス様の血によって私たちの所有権が移された
- だから、私たちは「人の奴隷」ではなく「キリストのしもべ」
- 警告：
 - 人の価値観や世の中の基準に縛られてしまわないように
 - 本当の主人は神様であることを忘れない

結論(7:24)

- 「召されたときのままの状態で、神の御前にいなさい」
- まとめ：
 1. 自分に与えられた分を感謝して歩む
 2. 見た目や外的要素にとらわれない
 3. 社会的立場よりも「キリストに属する者」というアイデンティティを大切にする
 4. キリストによって買い取られた者として、主の御心を第一に生きる

応答のための問いかけ

- あなたは「与えられた分」をどのように受け止めていますか？
- 見た目や人の評価を気にしすぎていませんか？
- 今の立場や環境の中で「主に仕える者」として生きていますか？
- あなたの所有者がキリストであることを、日々意識していますか？